

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201454		
法人名	医療法人 梶田医院		
事業所名	グループホーム みのりの里 たんぽぽ		
所在地	長崎県佐世保市長畑町507番地1		
自己評価作成日	令和 3年 10月 10日	評価結果市町村受理日	令和3年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 3年11月11日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

皆様が、家庭的な雰囲気の中、自分らしく生活して頂くために、傾聴に努め、職員も環境の一部である事を念頭におき、人生の大先輩という尊敬の思いを大切にして、笑顔で接しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、いつまでも自分らしく生活してもらいたいとの思いを理念に掲げており、利用者に優しい声かけを行い、思いに寄り添う支援に取り組んでいる。一日に一回は利用者に笑ってもらおうと職員が提案し、明るい雰囲気である。職員手作りの食事は、旬の物、季節の食材で利用者も一緒に手伝い、張り合いと楽しみとなっている。法人代表である主治医の訪問が毎日あり、隣接する事業所の3人の看護師にも気軽に相談できる体制は、利用者、家族、職員の安心に繋がっている。また近所のこども園との長年の交流継続は特記すべきである。更に職員の家族への思いやりと、介護のプロ意識はケアに活かされ、通院のサポートやパッド類の軽減に現れている。「その人らしく、そのまま元気に居てもらえたらいい」との職員の思いが実践されている事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社の際に理念を伝え、その人らしさや寄り添う介護に努めている。休憩室等の目に入りやすい場所へ掲示している。	玄関、事務所、トイレなど目に付く場所に理念を掲示し、浸透を図っていることがわかる。利用者がいつまでも自分らしく過ごせるよう、習慣や生活スタイルに気掛け、その人らしく、その時を大切にケアの実践に努めている。職員が笑顔で寄り添うことで利用者の穏やかな表情に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で、地域との交流は出来なくなったが、こちらから訪問して、関係が途切れないようにしている。また、日々の繋がりも大切にして、こちらから挨拶をしたりしている。	地区清掃の前日、空き缶、ゴミ拾いを行い、住民から掃除し易いと好評である。敬老の日には、弁当、紅白饅頭が届いている。近くのこども園との長年の交流は特記すべきであり、新型コロナ禍の中、玄関先に散歩中の園児が立ち寄っている。収束後は中学生の体験学習など再開予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の一斉清掃前に、空き缶やゴミ拾いをしたり、運営推進会議を活用している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、書面会議にはなっているが、書類を送付して、意見書を頂いて、サービスの向上に活かしている。	年6回、現在は書面会議である。地域包括センター、町内会長、民生委員など規定の参加者に近況、取組み状況等を報告し返信封筒にて助言や意見、要望等を得ている。ただし、家族等の参加が法人内事業所の交替であり、参加者以外の家族への運営推進会議の周知はこれからである。	運営推進会議は、事業所が提供しているサービス内容等を明らかにし、地域に開かれたサービスにしていくための理解と協力を得る重要な会議である。更なる前進のため家族の参加増と会議内容を家族が把握できるような取組に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市との連絡もメールでのやり取りが多くなっている。事業所の指定更新やその他の手続きも担当の方へお尋ねしながら対応している。	市の窓口や電話で、担当者に報告や連絡を取り、更新手続きなど行っている。地域包括支援センターや担当課職員とも相談しながら、協力関係を築くように取り組んでいる。市主催の研修会は、現在はオンラインでの実施となっており、職員は受講している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の適正化のための指針を掲げ、全職員が周知している。また、コロナ禍の為、施設内研修開催はできないが全職員へ資料を配布し、身体拘束のない支援に取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会が定期的に全職員へ指針と資料を配付し、身体拘束禁止の対象になる具体的な行為の理解を深め、日頃のケアの振り返りを行っている。事故報告の検討会を運営推進会議で行い、帰宅願望の利用者は見守りながら同行するなど、拘束しないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修で資料の配布をして再確認をしたり、日々の介護の中で、職員同士で虐待ではないか。の確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、該当する方がいらっしゃらない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人・家族の思いを傾聴し、わかりやすい説明を心掛け、ご理解と納得して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人の思いを傾聴し、家族へは面会時や電話にて密に連絡し理解を得ている。	契約時に苦情解決の流れを説明している。新型コロナ禍では、家族は玄関で職員との荷物のやり取りの他、窓越しに利用者と面会している。遠方の家族には従来に増して電話で近況を報告すると共に利用者の写真入りの便りを発送している。管理者、職員はコロナ禍であっても家族と利用者の面会が必要と考えている。	事業所には、オンラインを活用した面会方法について、検討の必要性の理解がある。今後の取組に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りやミーティングで意見交換を行い、コミュニケーションをとり、話しがしやすい雰囲気となるよう心掛けている。	毎月ケア会議、職員会議を行っており、職員は積極的に発言している。代表は毎日訪れ、職員に声を掛け気軽に会話ができる関係に配慮していることがわかる。休憩は一時間確保している他、資格取得のために時間が必要な職員には、シフトを工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいを感じて働ける環境の整備に努めている。また、労働条件等を話しやすくできるような雰囲気づくりをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為、施設内の研修(書類の配布)にて、スキルアップや再確認となるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会の会議や勉強会も、コロナ禍にて中止になっており、電話や書面でのやり取りとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族の要望や思いに添えるよう傾聴に努め、安心感を持って頂けるように、信頼関係を築くことから取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安・要望に添えるよう傾聴し、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の情報をアセスメントし、「その時」の状況に応じた対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	明るく家庭的な雰囲気の中、見守り・寄り添って、安心できる日々が送れるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で、面会ができない状況であるが、来所時や電話・お便りを通じて関係性を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、直接の面会が出来なくても、窓越しに会うことが出来るようにしたり、電話で声が聞ける場を設けたりしている。	新型コロナ禍以前は、花見や美容院に出掛けており、収束を待っている状況である。職員は、趣味の読書を満喫する利用者や歌を歌って楽しむ利用者など、個別に支援している。家族との面会が困難な時期にも携帯電話で欲しいものを持って来るよう家族と連絡を取る利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆様で憩える場所があり、レクリエーションやTV視聴で関わりを持ち、楽しんでもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてからも、何かありましたら、いつでもお声かけ下さい。とお伝えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に希望や意向の把握に努め、思いに添えるように支援している。	職員は、利用者同士のコミュニケーションに配慮し、発語困難な人には仲介している。会話や歌を歌うことで口を使い誤嚥予防に繋がっている。難聴の場合は耳元で語りかけ、幻視がある場合は、本人の発言に丁寧に対応し支援している。職員が、利用者の不安を取り除き、楽しい一日となるよう努めていることが確認できる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からの情報収集を基に過去の生活環境等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、個々の心身の状態を観察し、職員間で情報の共有をし、その時にあった支援ができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見・職員間での情報交換、主治医や看護師とも連携して、現状に応じた計画となるようにしている。	介護計画の更新時には、本人、家族の意見や要望、職員の気づきや看護師の意見など持ち寄り、主治医の療養管理指導を基に計画の検討を行っている。利用者、家族の要望が入った具体的な実践記録もあり、現状に即した計画となっている。家族の訪問時や郵送にて同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録や申し送りノートを活用し、迅速に情報の共有をして対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で、外出支援が困難ですが、生花を飾ったり、お弁当をとったり、季節の食材を取り入れた献立に差し替えたりして取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為に、消防署や地域の方の参加はできていないが、推進会議を通して入居者の状況報告をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人の為、往診や定期的の健康診断を受けている。医療連携体制もとれており、急変時の対応も出来ている。	毎日、法人の代表である主治医と看護師の訪問があり、気軽に相談できることは事業所の強みである。定期的な検診や医療連携体制で夜間急変時も適切な医療が受けられる。他専門医の受診は、場合により家族と職員が同行支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医・看護師と相談しやすい環境である。日常的に情報交換をし対応できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供だけでなく、入院中も定期的に訪問したり、電話にて情報交換をして関係者との関係を構築し、状態によっては、早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居開始時に、重度化や看取りについて説明と意向をお尋ねし、医師や看護師と情報共有をして、チームで支えていけるように取り組んでいる。	重度化した場合における対応に係る指針、看取りに関する指針があり、支援内容を説明し、同意を得ている。ADLの変化、食事状況の様子、家族の意向の変化や不安などがあれば同意書を取り直している。毎年看取りの事例があり、職員の研修や反省、振り返りを行い支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを基に、発生時には直ぐに対応出来るように備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	マニュアルを作成し、定期的に訓練を実施し有事に備えている。又、施設内での火器(タバコ・線香・ろうそく)の使用はご遠慮いただいている。	夜間想定で、年2回消防避難訓練を実施している。11月は消防署立ち会いの訓練予定である。地域住民に避難場所での見守りなどの協力を依頼している。緊急持ち出しリストも1冊にまとめ完備している。ただし、大雨時の河川氾濫のマニュアル確認はあるが、他自然災害の訓練は未実施である。	更なる前進のため、さまざまな災害の発生を想定し、確実な避難誘導ができるように、事業所の地域特性、立地に合わせたマニュアルの整備と訓練実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に敬語で対応し、傾聴に心掛けている。また、排泄ケアや職員間の会話も周囲への配慮をし個人のプライバシーを損なわないように配慮している。	利用者の尊厳を重視し、食事の際はエプロンではなくタオルを掛けて支援している他、失敗した際もさりげなく本人が傷つかないように誘導している。利用者は苗字にさん付けで呼んでいる。写真掲載は個別に同意を得ており、適切に対応していることがわかる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	第一に傾聴し、自分の思いが伝えられるような環境作りやお声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	見守りや傾聴を重視し、できるだけ本人の希望に沿った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服等は、本人の好みの物を選んで着用してもらったり、ご家族が準備された物をいつでも着れるように手の届く所に置いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞きながら献立をたてたり、手作りのおやつや季節の食材を取り入れて、一緒に作ったりしている。また、後片付けのお手伝いもして下さっている。	利用者の嗜好調査を基に職員が献立を立てている。誕生日にはリクエストから刺身なども提供している。時には出前を取り、玄関先にテーブル椅子を並べて食事を楽しんでいる。敬老会にはちらし寿司、正月には屠蘇を振舞い、祝っている。利用者は玉ねぎやジャガイモの皮むき、干し柿作りなど手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の現在の状態に応じた食事形態や量にしている。水分もペットボトルを準備したり、要求出来ない方には、状況に応じて支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状況に応じたケアの提供で清潔保持に努めている。また、自立の方も定期的にポリデントを使用して義歯の清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、失敗したと思わせないように配慮している。	職員は利用者ごとに排泄チェック表に記録し、排泄パターンを把握している。更に変化を見逃さず、小さな変化も職員間で共有し、失敗のない排泄を支援している。ポータブルトイレは使用の度に洗浄し、居室の快適性を保持している。医療機関からの入居はおむつであった人が、リハビリパンツや布パンツに改善している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の食事と水分の摂取量の把握に努め、食物繊維の多い食事の提供や水分補給用のジュレ提供し、自然に排便が促されるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	季節を感じて頂けるように季節の湯(菖蒲・バラ・ユズ)を楽しんで頂き、本人の希望での入浴や清拭等も行うようにしている。	事業所では週2回の入浴を支援している。入浴日以外の日、汚染等がある場合は、清拭し衣類交換している。車椅子の利用者は、足浴しながらシャワーを肩から掛け寒くないよう工夫している。ただし、脱衣室では、入浴後の人とこれから入浴する人が一緒に居る。	職員が少しの時間の余裕を持つことで、脱衣室で鉢合わせになることなく、入浴を楽しめるよう、検討見直しが望まれる。また、入浴日以外の日も汚染がなくても清拭、衣類交換の支援に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々、その人らしく、思うように過ごして頂き、安心して過ごす事ができ、気兼ねなく休息出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その人らしく、思うように過ごしていただき、安心した生活や休息が取れるように、見守りながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々で、出来ること・出来そうな事の見極めをし、負担に感じない生活レベル程度の役割で、やりがいを持って過ごしてもらえるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中、外出が出来ない状況だが、状況に応じた対応で、ストレスにならないように支援している。	新型コロナ禍で、従来通りの外出は困難な状況ではあるものの、敷地内の散歩や玄関先での茶菓子でのティータイムなど職員の工夫が見て取れる。車椅子の利用者も職員が支援し周辺を散歩しており、外気に触れる機会を多く作っている。新型コロナ禍収束後は、以前のように外出支援を再開する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の意向で現金を持たれている方もおられ、大事に財布やバックになおしておられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる方もいて、自由に連絡を取られている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる作品を、フロアーの壁に掲示し、四季を感じて頂けるように工夫している。又、共有スペースでも個々が自由に過ごせるように配慮し見守っている。	陽当りの良い居間では、利用者がソファや椅子の好みの場所で、テレビ鑑賞、洗濯物たたみ、カラオケで懐メロを楽しむ等、自由に寛ぐ様子が覗える。職員がドアノブ、手すりなどの消毒を日に3回行い、室温、湿度も調節し掃除も行き届いている。季節の作品で四季を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人掛けや長ソファを設置し、思い思いの場所で過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた物の持ち込み。本人が居心地よく、安全性にも配慮した空間となるよう、本人・家族と一緒に考え工夫している。	居室は、クローゼット、トイレ、洗面台の設置があり、自宅からテレビ、仏壇、使い慣れた小物類の持ち込みがある。家族の写真、毎年の誕生日写真、手作り作品に囲まれ、利用者が馴染みの中で寛げる工夫がある。掃除や換気も職員が定期的に行い清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒等のリスクを考え、歩行や動線の妨げにならないように安全に配慮した環境となるよう工夫している。		